教育開発支援センター　2012年度　プロジェクト紹介

TSネットワーク

TSネットワークは、Teaching AssistantとStudent Assistantの頭文字をとって名付けられたプロジェクトです。メンバーは、専任教員1名、事務職員3名で構成されています。本プロジェクトは、2005年度から試行的に実施している「TAを活用した授業」の実施結果を検証し、教育の質を向上させ、TA制度の実質化を目指すことをその目的としています。具体的には下記の2つの課題を検討することで、プロジェクトの目的を達成することを目指しています。

1）TA制度の実質化
TAの制度改善、TA制度に関する規程の策定

2）TAを活用した授業の質向上を目指した取り組み
TA研修の企画・運営、TA通信の発行等

1）TA制度の実質化

2011年度は、TAを活用する教員、TA、受講生への調査活動を行い、TA制度の評価をしました。その結果を『関西大学高等教育研究』第3号におきまして「関西大学における教育補助者を活用した活動、授業実践の動向分析―学部生・院生の教育力活用制度の全学展開に向けて―」として記し、成果と今後の課題について提言を行いました。ならびにTA以外の学生スタッフとしてピアサポーター、授業支援SA、ラーニングアシスタント（LA）の扱いや位置づけを紹介し、その整理をしました。

学部生・院生による教育力を学内で活用することの意義に関しましては、同号におきまして「学びをサポートする学部生・院生の教育力の活用」として提言をしました。今年度は、これらの活動を基盤とし、TA制度を実質化させるために規程を策定していきたいと考えております。

2）TAを活用した授業の質向上を目指した取り組み

TSネットワークでは、2010年度からTA研修を実施しています。研修ではTAが授業を通じて導き出した工夫や改善策を共有し、TAが活動をふりかえり、より質の高い活動を実施していくための機会を提供するようにデザインしています。研修の成果をもとに今年度はTAのチップス集を発行したいと考えております。

また、TAを活用した効果的な授業実践をより多くの先生、TA、受講生に知っていただくために、TA通信の発行もしています。TA通信ではTA活動の紹介、活動を通じて学んだこと、学習効果が高いとTAが感じたツールやノウハウについて紹介しています。ぜひご覧ください。（http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/outline/ta05.html）

（教育推進部　岩﨑千晶）

全学ICT活用推進会議・ICT活用授業の普及活動

1）「全学ICT活用推進会議」

本プロジェクトは学長からの要請で、全学的なICT活用に関する基本方針を策定することを目的に、本年度より3年間のプロジェクトとして立ち上がった、教職員10名からなるプロジェクトである。

本プロジェクトの使命は、「eラーニング/eポートフォリオ活用推進ワーキンググループ報告書」をふりかえり、先ず、以下の5点について本学全体のICT活用による教育の質的向上を目指し、それぞれの活動の目標と目的を明確にし、基本方針を策定することである。

本プロジェクトの活動内容構想

1. ICTを用いた教材の企画・開発・制作支援及び講習会・研修等の企画提案
2. ICTに関する各種システムの開発、拡充、及び運用管理についての提案（iTunesU等の外部リソースの活用も検討する）
3. ICTに関する学外諸団体との連携についての基本方針の提案
4. コンテンツの公開に関する法的･技術的な検討と実践的利用方法の提案
5. 全学的なICT教育への活用の提案および推進

さらには、ICTによる「単位の実質化」への取組も追加すべき課題である。加えて、本学が幹事校である学外の諸団体（JOCW、大学eラーニング協議会、Sakai Foundation等）に対しても、本学における教育現場でのICT活用の方針および連携のあり方を明確に示すことである。

2）「ICT活用授業の普及活動」

本プロジェクトは2011年度より始まったプロジェクトで、教育推進部教員2名と授業支援グループ職員3名からなる。本プロジェクトの使命は、これまでに整備・導入されたアクティブ・ラーニングを促進する教育支援用ICT機器やシステム、及び、授業時間外学習を促進するためのインフラについて、全学レベルで啓蒙・普及をおこなうことである。これらの使命を実現するための具体的な活動内容構想は以下のとおりである。

本プロジェクトの活動内容構想

1. ICTリテラシー基準及び自己評価尺度の作成
2. 教育支援用ICT機器やシステム等の普及のためのワークショップ・講習会の開催
3. ICT活用事例カードの作成と配布
4. 教育支援用ICT機器の各種簡易利用マニュアルの作成と配布
5. 教材コンテンツ作成のためのアドバイス
6. ICT活用授業のためのコンシェルジュ・カードの作成と配布

昨年度に引き続き、既存の授業支援のためのICT機器やシステムの啓蒙および普及をランチョンセミナーやコンシェルジュ・カード等を通して推進していく。

（教育推進部　山本敏幸）

ライティング支援プロジェクト

「2位じゃダメなんでしょうか?」という発言に象徴される事業仕分けの話ははるか別世界の出来事だと眺めていたが、直接影響をうけることとなった。文学部で2010年度に採択された大学教育推進プログラムGP「文学士を実現化する<学びの環境リンク>；卒論ラボ・スケール・カードの有機的な連携による“気づき”を促す仕組み作り」を始めとした他大学を含む全取り組みが2011年度いっぱいで中止となったのである。

文学部のこの取り組みは、当初からGP終了後（平成25年度以降）は全学的な「ライティング」の取り組みとして発展的に展開する計画になっており、そうした中でGPの期間1年を残しての「仕分け」にあってしまったことになる。

本学としてはこの難局に対して、将来的に全学展開する場合に担当することになると想定されていたCTLを中心とした教育推進部で対応を議論し、本来のGP最終年度である2012年度は、文学部のこれまでの取り組みを継承する部署としてCTL内部にあらたな研究プロジェクト「ライティング支援プロジェクト」を立ち上げることにした。こうした流れの中で紹介するときわめて消極的なプロジェクトに映るかもしれないが、実はその逆で、大学の取り組みとしては、学士力育成の文脈で極めて重要な位置づけとなっている。すなわち、ライティング（書く）力は、論理的思考力･批判的思考力、情報の取捨選択の力、表現力、文章力といった、大学での学びに必要な諸能力を象徴した力だと考え、それを育てるプロジェクト、と位置づけているのである。

本年度は法人の理解も得て文学部の取り組みをもとにこれを全学展開すべく、文学部内に「ライティングラボ運営委員会（委員長：菅原慶乃准教授）」を設置し、同時にCTL内に「ライティング支援プロジェクト（プロジェクト代表：中澤務教授）」を開設して両側面から全学展開に向けての組織形成・運営にあたることとなった。前期は主に文学部の取り組みの継続（写真は、第1学舎にあるライティングラボの一部屋）、後期からは全学展開に向けての諸準備に取り組むこととしている。組織の運営上、中澤教授にはCTLの専門委員の1人としても活躍いただき、CTLからも文学部の運営委員会に岩﨑千晶助教が参画している。全学展開に向けてのライティング支援のための空間の確保や人材の確保等問題は山積しているが一歩一歩前に進めていきたい。

これに加えて、同様の取り組みをしている他大学や関連する諸機関との連携を視野に入れた活動の準備も進めている。

（教育開発支援センター長　田中俊也）